

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3月15日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500~39,500 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,500~39,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500~16,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~105.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

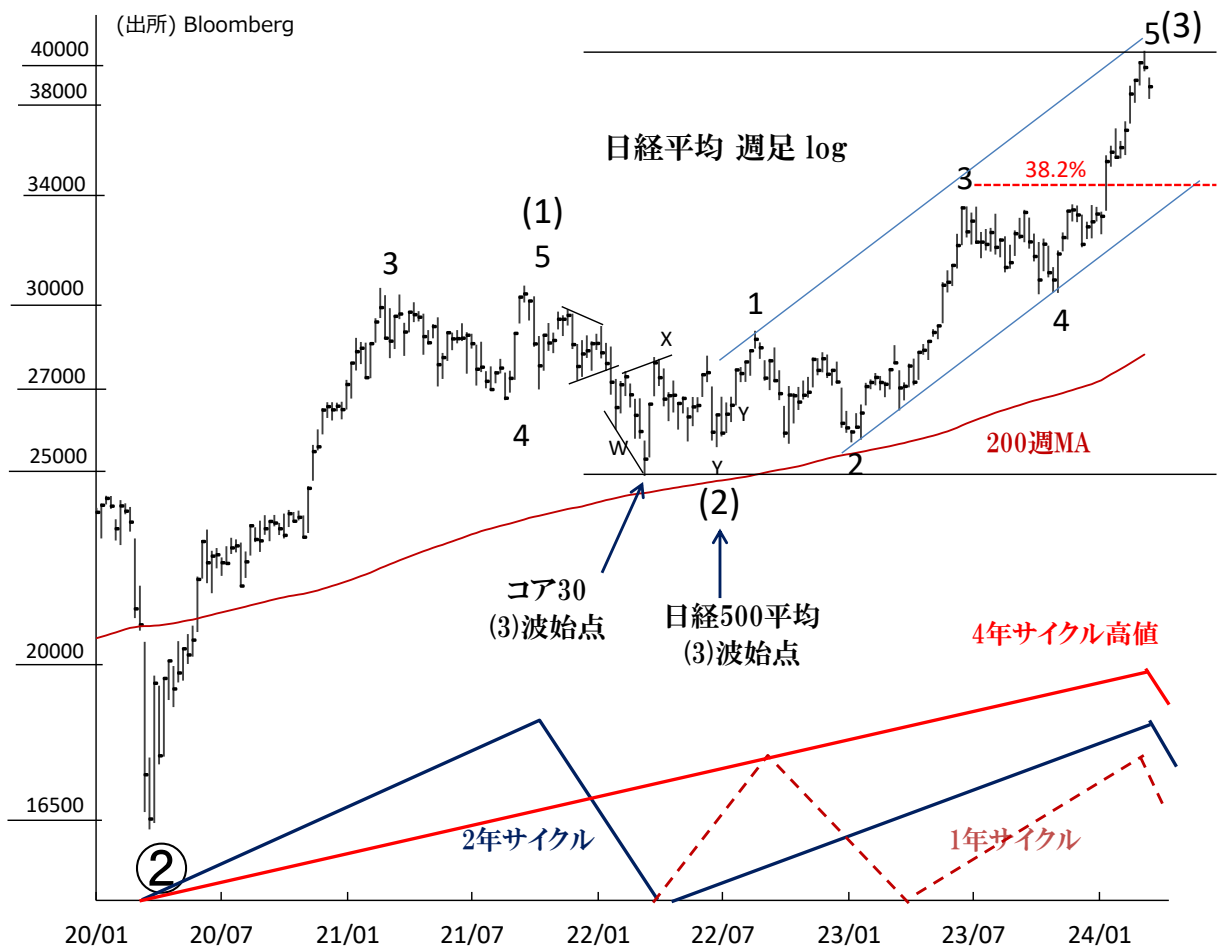
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均

世界金融危機の底値を付けた 08 年 10 月以降、日経平均はおよそ 4 年周期で底入れしてきました。コロナショック底(20 年 3 月)を起点とする現行の 4 年サイクルは、3 月 7 日の 40,472 円で天井を付けました。今は 4 年サイクル底に向けた下げ局面ですが、底打ちは早ければ 3 月、順当には 6 月頃になりそうです。



【週足・エリオット波動分析】

TOPIX は 89 年高値『2886.50』まで一定の距離を残しますが—現状の NT 倍率(14.58 倍)からみると TOPIX が最高値に並ぶには日経平均で 42,000 円程度が必要とされます—今年後半から来年にかけての最高値更新は可能でしょう。

3 月 7 日に付けた 40,472 円を以て③-(3)波「サード・オブ・サード」は終わったとみられます。それは今月のマンスリー・フォーカス(No38)で指摘したチャート節目[40,478 円]に一致しており、③-(3)波天井(4 年サイクル高値)にふさわしい水準です。

3 月 7 日高値からは③-(4)波による調整が進行中です。③-(2)波が時間をかけての調整だったため、③-(4)波は[ジグザグ]のような、単純かつスピード感を伴う急落になるでしょう。日経平均は第(4)波により、高値から 10%-20%(4 千円~8 千円)程度下げる可能性があります。

第(4)波の下値メドにはいくつかのオプションがあります。

手始めに、22年3月—コア30の第(3)波上昇開始時—の日経平均安値・24,681円に着目しました。そこから2年後の高値・40,472円までの通算上昇幅は15,791円です。その23.6%、あるいは38.2%を引き返すと仮定してみると、**[36,745円][34,440円]**が第(4)波安値の候補となります。下げ幅と下げ率は各々、「**3千700円、9.1%**」、「**6千円、15%**」です。後者に関しては、③-(2)波の下げ幅とほぼ同等です。



【日経平均 日足・エリオット波動分析】

22年6月安値(25,520円)以来の第(3)波における最後の上昇局面(第5波)は、40,472円(3/7高値)を以て終わった可能性が高いとみています。

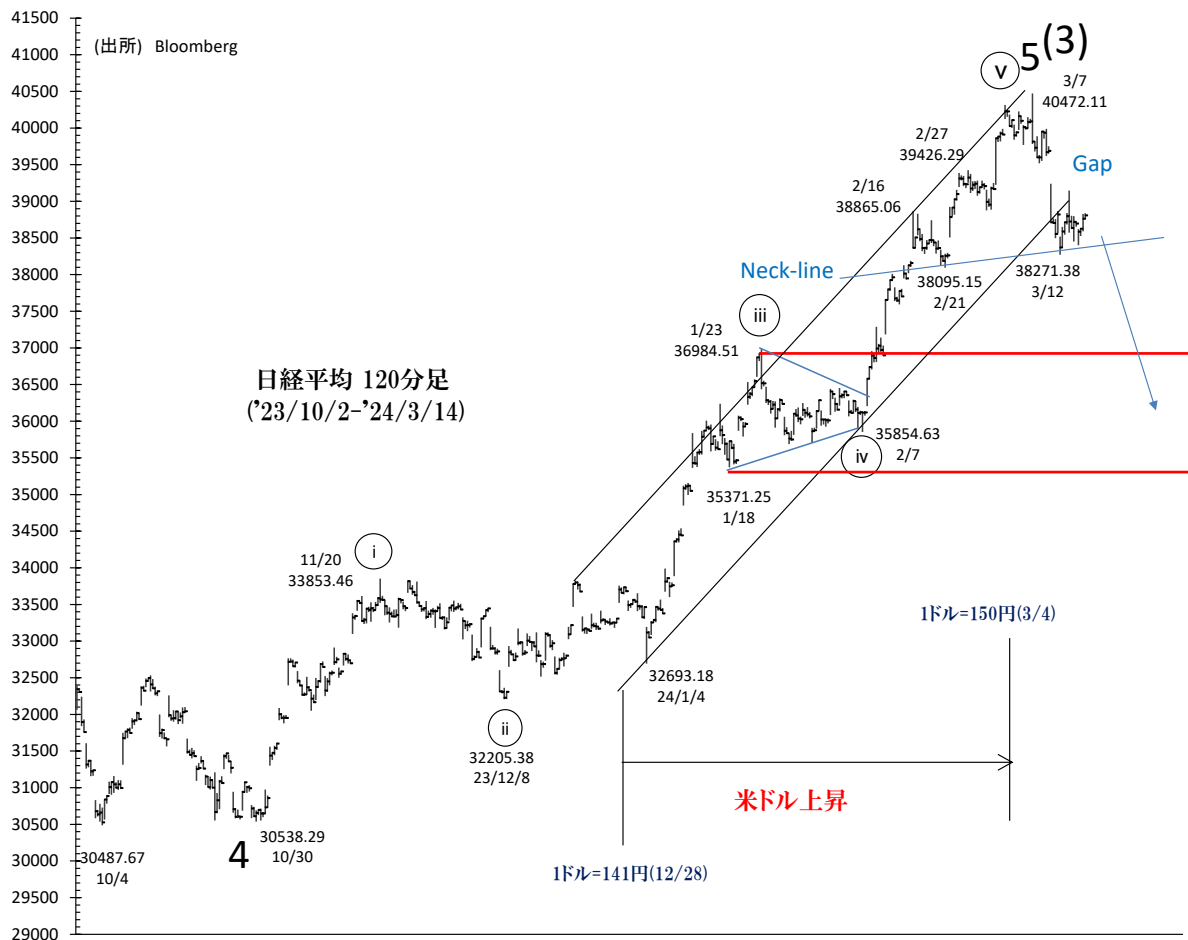
先週はパラボリック SAR が1か月ぶりに売り転換し、今週(3月11日)には MACD も売りシグナルを發しました。

日経平均の移動平均総合かい離は41.32%(3/4)をピークに縮小に転じました※。

23年6月19日に第3波高値(33,772円)を付けた日経平均は、10月4日の安値(30,487円)まで3か月半で10%近く下げています。第4波による調整が進むさなか、総合かい離は6月14日(42.27%)から10月26日(-7.46%)まで縮小しました。

※直近の総合かい離…24.2%(3/14)

今回の第(4)波は第 4 波の一つ上位の等級(ディグリー)に当たり、下げの規模は一回り大きくなると想定するのが適当です。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

30,538 円(10/30 安値)を起点に展開してきた、(3)-5 波による上昇トレンドは、40,472 円(3/7 高値)を以てそのすべてを完了したとみられます。

3 月 12 日は一時 38,271 円まで下げる場面があり、この時点で高値からの下げ幅は早くも 2 千円を上回りました。年初からの上昇チャネル下限が破られていますので、足元は小康を得てはいるものの、目先の戻りは限定的でしょう。

日経平均が 38,271 円を割り込むと、[ヘッド・アンド・ショルダーズ]のネックラインが破られます。それをきっかけに日経平均は下げ足を一段と速める可能性があります。

なお先に書いた下値メドとは別に、レッサー・ディグリーマル iv 波の領域[36,984 円-35,371 円]も、第(4)波安値の候補として注目できます。

【3 月 14 日 16:34 更新】

NYダウ



【NYダウ日足・エリオット波動分析】

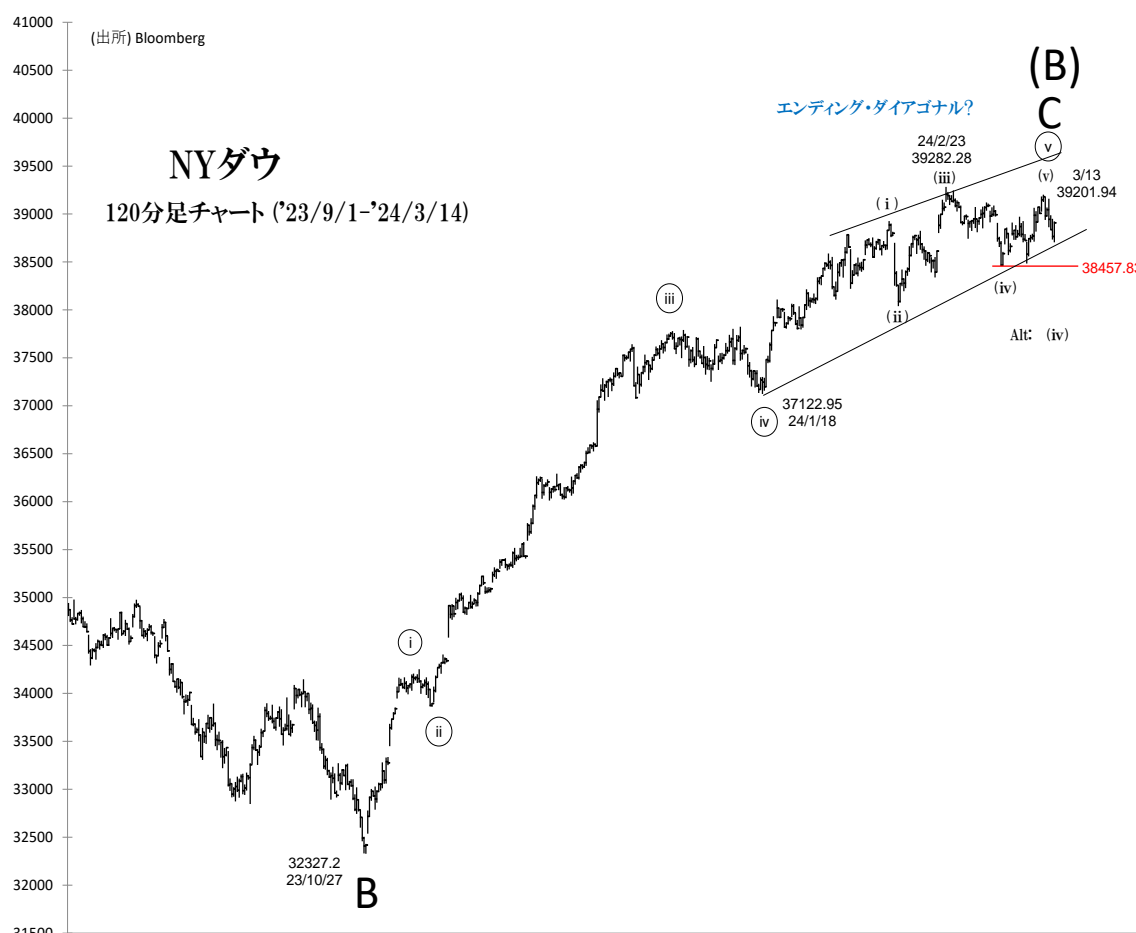
NYダウは22年1月高値(36,952ドル)から、プライマリー級④波が展開中とみています。④波は[拡張パターンのフラット]、[ランニング・フラット]など、複雑なパターンを形成する可能性が高いでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする上昇は、④波中(B)波による『戻りラリー』に位置付けられます。(B)波はA(↗)-B(↘)-C(↗)の3つの波で構成されます。

23年10月安値(32,327ドル)からの上昇は(B)-C波に当たり、それは終わったか終わりつつある、とみています。

現行(B)波の上昇が終わると(C)波による下落トレンドへの移行が想定されます。

(C)波は5つ波で構成され、それは22年10月安値(28,660ドル)を下回る可能性が高いでしょう。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

23年10月安値(32,327ドル)からの(B)-C波による上昇は、その最終上昇波(マルv波)を終えたか、終えつつあります。

37,122ドル(1/18安値)からのマルv波に、転換パターンとしての[エンディング・ダイアゴナル]が形成されています。38,457ドル(3/5安値)を割ると最初の弱気トリガーが発動し、(B)-C波終了と(C)波による下げトレンド開始が示唆されます。

目先39,201ドルを上回る場合には、[エンディング・ダイアゴナル]における最終(v)波が進行中とみることができます。そうするとNYダウの最高値更新も視野に入りますが、高値を更新しても持続性に乏しく、ピークアウトは時間の問題でしょう。

ひとたび(C)波の下落に入れば、それは22年10月安値(28,660ドル)や、さらに下方の水準へと、NYダウを押し下げる可能性が高いでしょう。

【3月15日 10:13 更新】

ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

21年11月高値からは、プライマリー級第④波に位置付けられます。この第④波の全体像は、[トライアングル]や[フラット]など保ち合い相場が想定されます。

④-(B)波によるリバウンドは終わったか、終わりつつあります。

15,158(1/31 安値)からの上昇パターンは、相場天井に先立つ[エンディング・ダイアゴナル]のようにみえます。この見方は、目先の15,862(3/5 安値)を下回ることにより強化されます。この場合、ナスダックは「速やかに」15,158(ダイアゴナル始点)まで下げることでしょう。

さらに④-(C)波による調整は続き、ナスダックは21年～22年に相当するスケールで下げ基調を強めていくでしょう。

筆者による想定下値レンジは[12,000-10,000]です。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値 (4068) 以来のパターンは[エキスパンディッド・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディッド・フラット]なら、来る(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

3 月 14 日に SOX 指数は一時 4741 まで下げ、8 日に付けた最高値(5217)から 9.1%安くなりました。下げ率は昨年 10 月からの上昇中でもっとも大きく、重要なピークを付けた可能性が示されています。

(オルタナティブ・カウント)

22 年 10 月安値 (2089)からはプライマリー第⑤波であり、23 年 10 月安値からの上昇は「⑤波-5 波」に相当します。⑤波に続いて起きるサイクル級の調整局面は、2027-28 年まで続くと思われます。

【3 月 15 日 9:21 更新】

米ドル/円

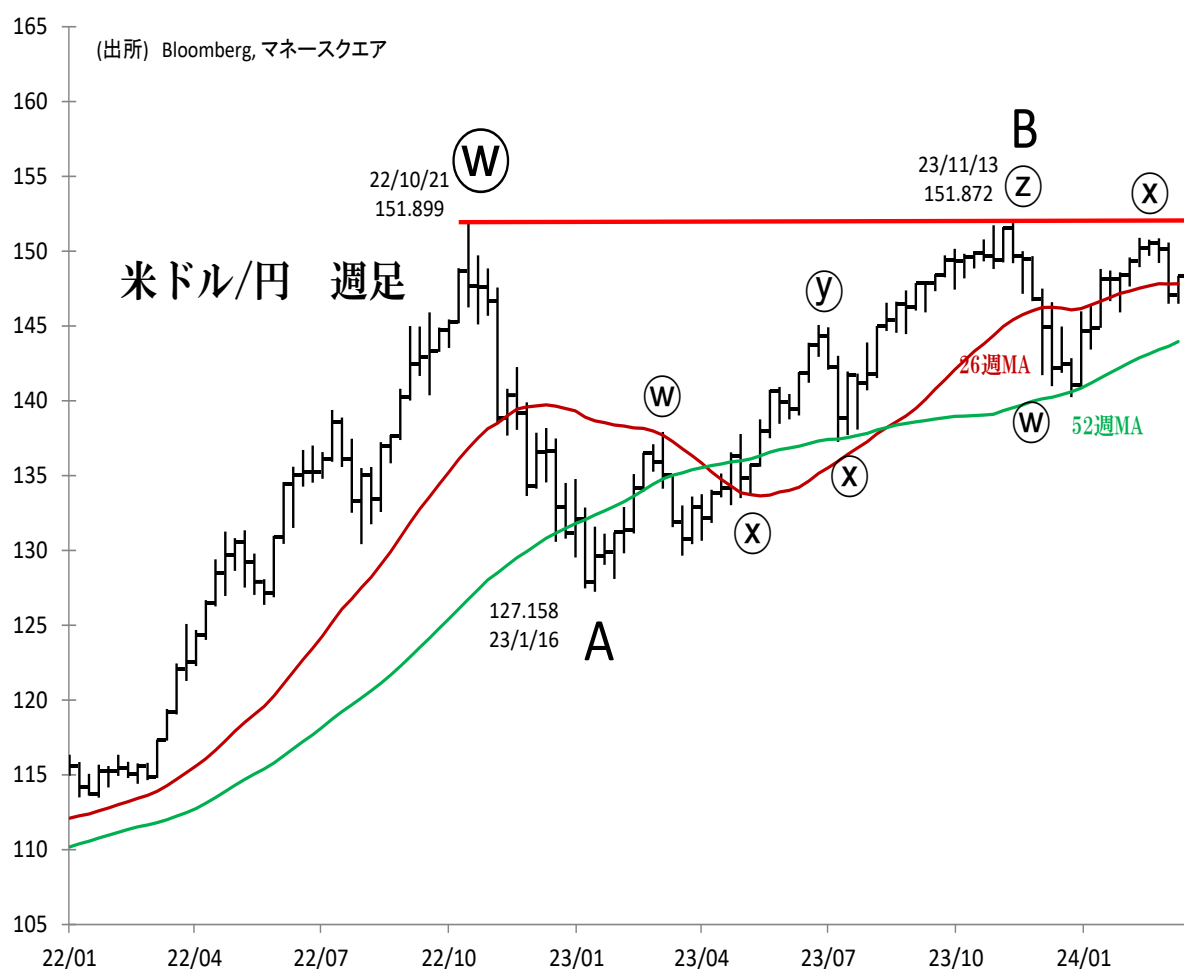


2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安⊗波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。

【月足・エリオット波動分析】

22年10月以来の『円高局面』は、長期円安トレンドにおける中間波・⊗波に位置付けられます。この⊗波は、2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

23年1月(127.158円)からの⊗波-B波によるドル/円上昇は、151.872円(11/13)を以て終わり、そこからは⊗波-C波による下落トレンド(ドル安・円高)が進行中と思われます。このC波により、ドル/円は135円処を、あるいは125円処を目指す可能性があります。



【週足・エリオット波動分析】

ドル/円は、22年10月高値の151.899円と、23年11月高値の151.872円で、1年越し[ダブル・トップ]を完成し、そこからC波の下落トレンド(ドル安・円高)が進行中とみられます。

さらに2月13日に付けた高値・150.840円を以て、23年末からのドル/円「リバウンド」は終わった可能性が高い、とみています。22年10月から1年4カ月越し[トリプル・トップ]を完成したことになります。

CFTC 統計によると、**非商業部門(ヘッジファンドが中心)による円売り合計は、足元16年4カ月ぶりの大きさ**です。26週MAを週末値で下回ることが普通になると、**26週MAを中心にスタンスを決める傾向があるヘッジファンドは、円買い戻しを強める可能性**があります。円売りが大きく膨らむ中での円買い戻しにより、ドル/円は一時的にも大きく下げられると思われます。

そんな中、米ドル/円は52週MA^注を試す地合いとなっていくでしょう。

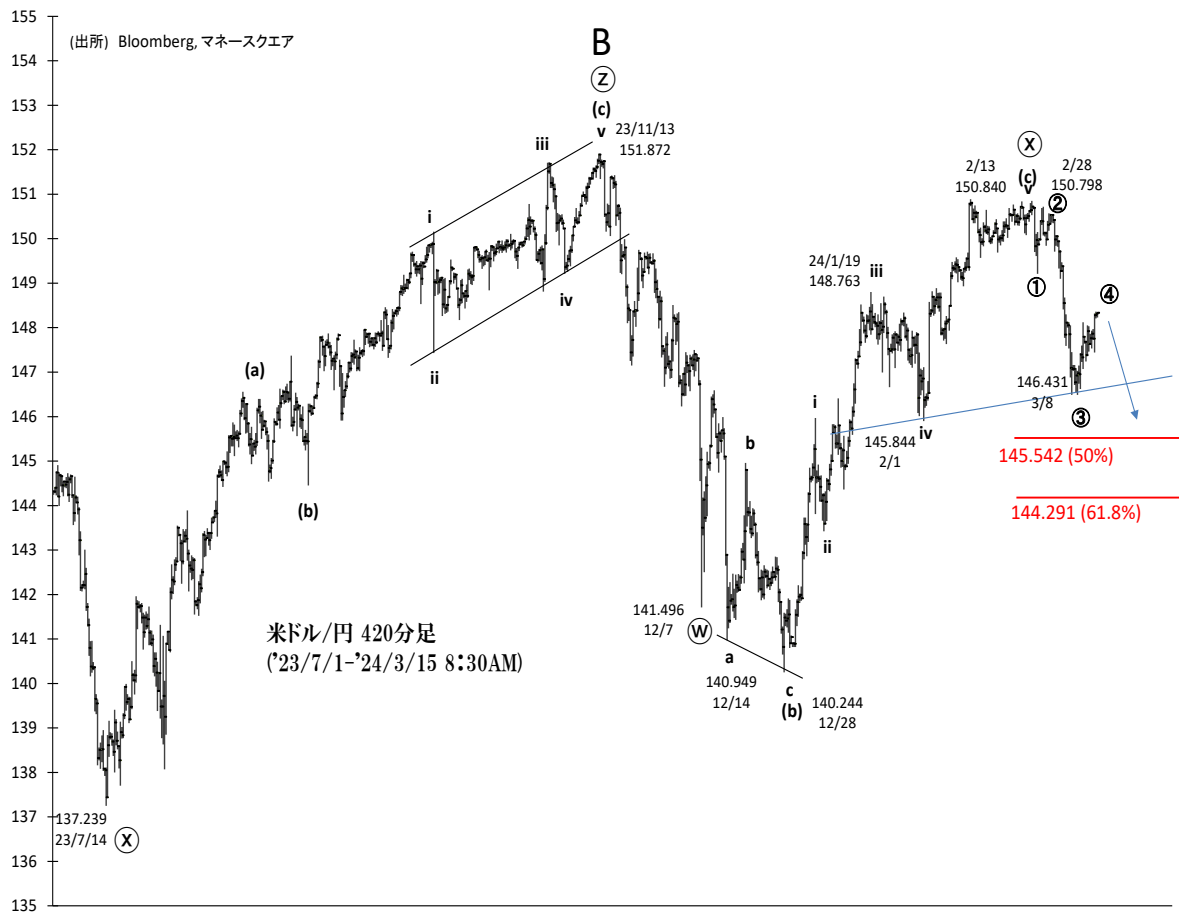
(注) 26週MA…147.805円、52週MA…143.943円(執筆時点)



【日足・エリオット波動分析】

⊗波によるリバウンドは 150.840 円(2/13)で終了し、そこから⓪波によるドル安が進行中とみられます。
この⓪波によるドル安は少なくとも、昨年末の水準・140.244 円(12/28)を下回るまで続くでしょう。

足元は 200 日 MA がサポートとして意識され、リバウンドの動きとなっています。筆者のみたところ、リバウンドは早々に終わり、近いうちに 200 日 MA を明確に下回るドル/円下げとなるでしょう。



【時間足・エリオット波動分析】

150.840 円(2/13)を起点に、(V)波による下落(米ドル安・円高)が進行中とみられます。

(V)波はドル/円を、140.244 円(12/28)を下回る水準へ押し下げてください。

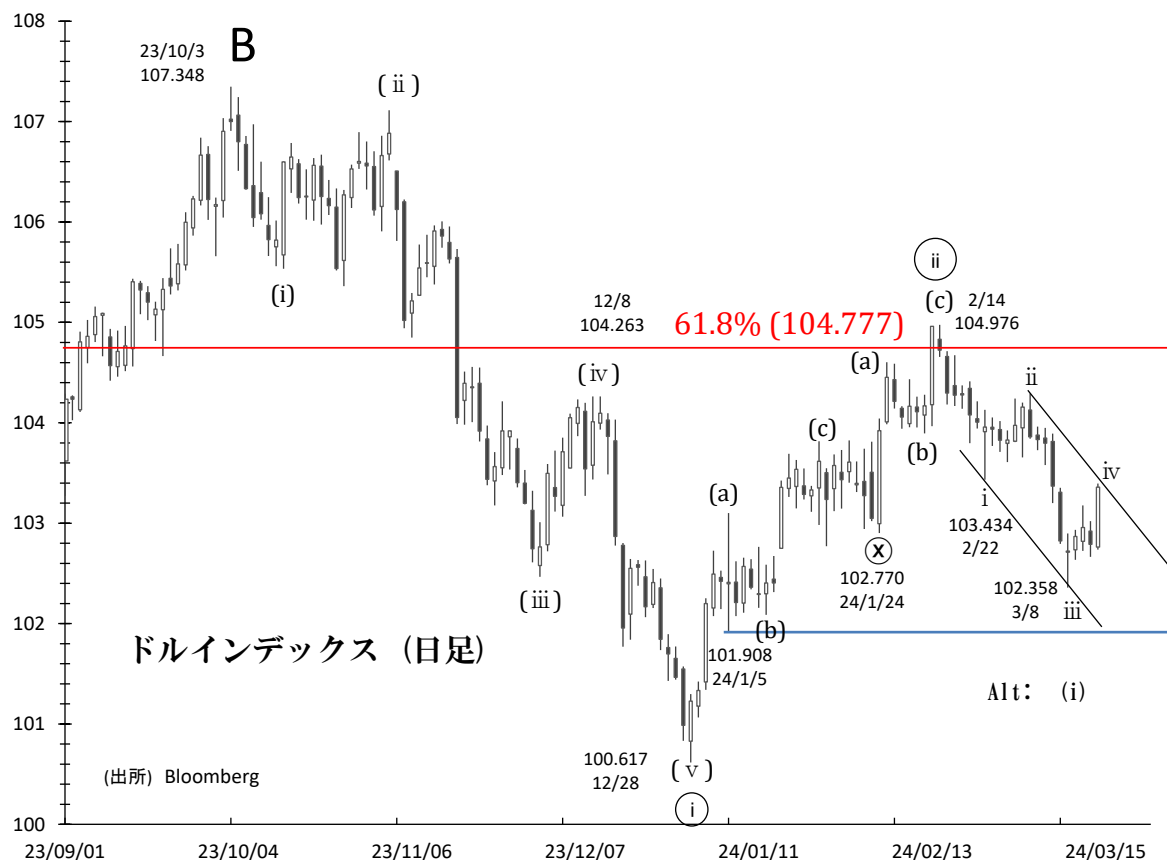
直近ドル/円は昨年 12 月からの上昇に対する 38.2%押し水準[146.792 円]を達成しました。

146.431 円(3/8)からは、(V)波中「マイクロ級」④波によるリバウンドとみられます。この波動カウントに基づくと、来週以降のドル/円は⑤波による下落かもしれません。

なお 146.431 円割れによって、[ヘッド・アンド・ショルダーズ]が完成します。ネックライン割れをきっかけにドル/円下げが加速するかもしれません。近いうちに[145.542 円-144.291 円]を試す可能性があります。

【3 月 15 日 8:21 更新】

ドルインデックス (ドル指数)



【日足・エリオット波動分析】

23 年 10 月高値(107.348)からは C 波によるドル安に位置付けられ、この C 波は 5 波構成(マル i 波～マル v 波)になります。

104.976(2/14)を起点に、マル iii 波によるドル安トレンドが進行中です。

重要な高値や安値というのは、「第 3 波」によって破られることが珍しくありません。

おそらく現行マル iii 波によって 23 年 7 月安値(99.578)は破られ、[98.245]が試されるでしょう。

[98.245]…マル iii 波がマル i 波と等しく下がる水準

直近ドル指数は上げていますが、リバウンドという認識です。102.358(3/8 安値)からのドル高は、マル iii 波の副次波である第(i)波における第 iv 波の戻り、あるいは、(ii)波の戻りでしょう。

来週は再び、ドル安の流れが強まる可能性があります。

そんなドル安が進行する一方で、多くの通貨が対米ドルで上昇するでしょう。

【3 月 15 日 7:55 更新】

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
